

LESSON 34

ハインリッヒの法則に基づく分析の結果、重大事故へ至る連鎖リスクが最も高い根本原因として「連絡不足」を挙げます。

選定理由：なぜ「連絡不足」の連鎖リスクが最も高いのか

1. 「未対策（放置）」の温床になっている

ハインリッヒの法則において、重大事故の連鎖を止める最大の鍵は「底辺にあるヒヤリハットや異常を放置せず潰すこと」です。しかし台帳を見ると、現在「未対策」のまま放置されている4件の事案のうち、3件が連絡不足に起因しています（分電盤の施錠ルール未周知、立入禁止表示の未復旧、他社作業員の無断進入）。異常が改善されないまま放置されているこの状態は、重大事故への連鎖が最も進行しやすい危険な兆候です。

2. 発生頻度と被害の重大性

全事案の中で「連絡不足」を根本原因とするものが14件と最も多く発生しています。さらに、重大度3の危険な事案（クレーンの接触寸前や強風予報の伝達漏れ）を引き起こしているだけでなく、実際に負傷（熱中症による体調不良）を伴う事故にまで発展したケースも含まれており、既に被害が顕在化し始めています。

連鎖を断ち切るための具体的な対策提案

この「連絡不足」による負の連鎖を断ち切り、重大事故を防ぐために以下の対策を提案します。

1. 「口頭のみの伝達」を廃止し、情報と危険を「可視化」する 誘導員の引き継ぎが口頭のみで認識相違が起きた事案や、立入禁止表示が撤去されたまま口頭での注意に留まっていたと推測される事案が発生しています。

- ・ 対策: 重要な引き継ぎには必ずチェックシート等の記録を用い、立ち入り制限エリアには他社作業員にも一目でわかるよう必ず「看板」を追加設置するなど、ルールや危険箇所を物理的に「目に見える形」にしてください。

2. 業者間・チーム間をまたぐ「全体共有体制」の強化 分電盤の施錠ルールが他チームに知られていない、他社作業員が無断進入するといった、情報が特定のチーム内でサイロ化（孤立）している事案が目立ちます。

- ・ 対策: 強風予報時の朝礼での確認義務化を水平展開し、「本日の立入禁止エリア」や「特殊な作業ルール（施錠など）」を毎日全体の朝礼で全業者に向けて共有することを必須化してください。また、離れた場所での合図漏れを防ぐため、無線連絡のルール再徹底も有効です。

3. 「未対策」事案の即日クローズ（解消）ルールの導入 ルールの未周知や看板の未設置といった「未対策」のヒヤリハットは、放置すれば明日重大事故の引き金になります。

- ・ 対策: ヒヤリハットが報告された際、ルールの周知や表示の設置といった「すぐに実行できる連絡・表示系の対策」は即日対応を原則とし、現場管理者がその日のうちに「対策済み」へステータスを変更・確認する運用プロセスを導入してください。

根本原因の分析と対策は以上となります。この対策内容をもとに、現場の作業員向けに安全教育用のスライド資料（または小テスト）などを作成しましょうか？